

写真：総務省消防庁「チャレンジ防災48」

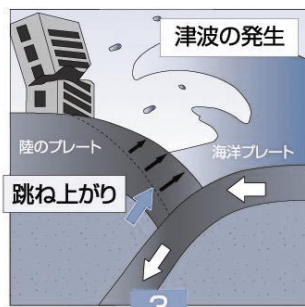


今後30年間 東海地震の発生確率87%

蒲郡市を含む東海地方では、100～150年の周期で、マグニチュード8クラスの大地震が起きています。前回の安政東海地震が発生してから、今年で156年。大地震は、いつ起きてもおかしくありません。今号では、地震発生のしくみや、発生に対する備えなどについてご紹介します。

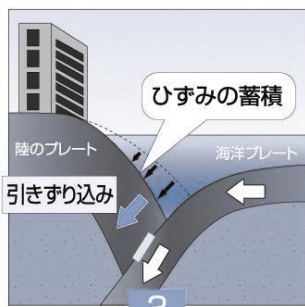
安全安心課 ☎66♦1156

海溝型地震発生のしくみ

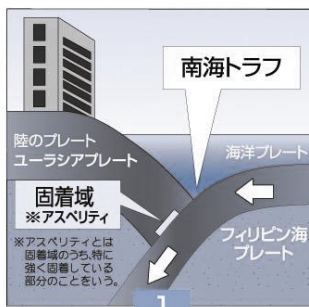


ひずみがその限界に達したとき、陸のプレートが跳ね上がり、海溝型地震が発生する。その際、津波も発生する。

愛知県発行「防災・減災お役立ちガイド」より



陸のプレートの先端部が引きずり込まれ、ひずみが蓄積する。



海洋プレート(フィリピン海プレート)が陸のプレート(ユーラシアプレート)の方へ移動し、その下へ潜り込む。

地震発生のしくみと確立

今、この地方で最も恐れられている災害「東海地震」。東海地震は海溝型地震という地震であり、次のようなしくみで起こります。

プレートは毎年約4cm動いており、ひずみが4mに達すると地震が発生すると言われています。そのため、地震は100年周期で起こるとされています。東海地震は1854年に発生した安政東海地震より150年以上が経っています。また、今後30年間で、東海地震が発生する確立が87%、南海地震では60～70%、南海地震では50%だと言われています。発生しないからと忘れてしまうのではなく、いざいざのときに対応できるようにすることが重要となります。

地震発生に備えて

大規模地震の発生は明日かもしれないかもしれません。万全の対策はないかもしれませんが、行うべきことを行っただけで被害は大きく軽減できます。

また、大震災の発生直後では、公共の支援が十分に届かない状況が予想されます。市の備蓄食料なども最低限の数しか備えていません。各家庭で3日は生き延びて救助を待てるように備えましょう。